

風呂敷を活用した 出前授業プログラム

2007

活動報告



財団法人千里文化財団

発行日 2008年3月31日
編集・発行 財団法人千里文化財団
〒565-0826 吹田市千里万博公園1-1
TEL : 06-6877-8893
FAX : 06-6878-3716
e-mail : furoshiki@senri-f.or.jp

風呂敷を活用した出前授業プログラム 2007 活動報告

趣 旨

現代の日本社会において風呂敷の存在は忘れられかけているが、風呂敷は「環境」や「日本の伝統文化」を子どもたちに学ばせる上で大変すぐれた教材となる。それだけにとどまらず、一枚の布でものを包む文化は日本以外の世界の各地で見られ、異文化理解へとつなげていくことも可能である。本プロジェクトは、そうした風呂敷文化を子どもたちに体験を通して伝えていくことを目的とし、小学校、中学校、児童館などで出前授業を実施している。また、子どもたちを対象とした出前プログラムばかりではなく、大人を対象とした講座も実施している。こちらは風呂敷文化を伝えることに加え、将来的には講座を受講した大人が学校の授業や地域活動等で子どもたちの体験活動に携わるようになることを目標としている。本報告書では、出前プログラムや大人を対象とした講座開催の実施報告を行うとともに、次年度以降の活動に向けての課題について考察する。

なお、本報告書は2007年4月1日～2008年2月29日にかけて、日本財団ならびに松下電器産業株式会社の助成、および日本風呂敷協会の協力のもとに実施した活動をまとめたものである。

報告者 小林万里絵（財団法人千里文化財団）

プログラム実施者 小林万里絵（財団法人千里文化財団）

田中 千尋（財団法人千里文化財団）

吉田 瑛美（財団法人千里文化財団）

1. 生徒・児童を対象としたプログラム

- 1-1. 出前授業、プログラム実施経緯
- 1-2. 利用学年
- 1-3. テーマ
- 1-4. 授業内容
- 1-5. 各学校の活用法
- 1-6. 生徒・児童の反応 感想文、アンケート結果から
- 1-7. 取材
- 1-8. 今後の課題

2. 大人を対象としたプログラム

- 2-1. 活動概要、講座実施経緯
- 2-2. 講座のテーマと実施場所
- 2-3. 事例紹介
- 2-4. 今後の課題

資料

活動一覧

アンケート集計

指導案、取材記事

1. 生徒・児童を対象としたプログラム

1-1. 出前授業、プログラム実施経緯¹

出前授業の募集にあたっては、小学校を中心に中学校、児童館での実施も視野に入れ、大阪府、京都府下の教育委員会や教育センター、児童館等に出向き、情報収集をおこなった。募集の効果的な案内方法や実施に適した学年、教科やテーマについて得た情報をもとに「出前授業案内」パンフレットを作成し、学校や児童館等の施設に配布した。一部の市では校長連絡会、教頭連絡会で授業の紹介をさせてもらった。

今年度は26件（小学校19件、中学校3件、児童館4件）にて1,981名を対象として実施した。（実施一覧については資料参照）

授業、プログラムの申し込みについては、パンフレットを見たクラス担任による電話での問い合わせおよび申し込みがもっとも多かった。中には学校長からの申し込みもあったが、少数派である。風呂敷を用いた環境教育の教員研修（教育センターからの依頼により実施）を行ったことが申し込みに大きく影響したケースもあった。研修参加23校のうち7校から申し込みがあった。

その他、後述するPCT（parents, children, teacher）という活動をしている学校の保護者からの申し込みが1件あった。このケースは、出前授業の様子が放映されたテレビニュース番組をきっかけとしたものであった。

いくつかの市では学校に外部講師を派遣するために人材バンク制度を用意しており、担当者の勧めにしたがって登録を行ったが、人材バンクをとおしての申し込みはなかった。

児童館でのプログラムについては、情報収集のために訪問した館からの申し込み3件の他に、京都府の「京のまなび教室」（放課後子どもプラン）による依頼が1件あった。



募集案内パンフレット



学校用テキスト

¹ 児童館での実施については「授業」という言葉がそぐわないため、「出前プログラム」として実施している。

1-2. 利用学年

申し込みがあり、出前授業を実施した学年は下記の通りである。(実施校一覧は資料参照)

<児童館>	<小学校>	<中学校>
幼児～小学生 4館(96名)	3年生 9校(19クラス593名)	1年生 1校(2クラス70名)
	4年生 5校(11クラス416名)	2年生 2校(6クラス235名)
	5年生 4校(8クラス321名)	
	6年生 3校(6クラス198名)	

小学3年生の利用がもっとも多く、続いて4年生、5年生、6年生。学校の授業としての申し込みは3年生以上で、1、2年生での利用はなかった。児童館のプログラムでは、低学年の子どもも参加し、楽しんでいるので体験を楽しむ場としては十分だが、「授業」として説明を加えていく内容では難しいものと思われる。授業の内容(体験とお話)と子どもたちの反応を見ていると、3、4年生向きであると思われるが、中学生もこちらの予想以上に風呂敷の体験に取り組んでいた(右写真)。また、5、



6年生では、一見、反応が少ないように見えても、感想等をみるとエコバックの利用法、世界の包み布などについてこちらの意図がしっかりと伝わり、言葉として表現している様子が見え始める。このことから学校の授業としては、3年生以上であればアレンジによってどの学年でも対応可能であると言える。

1-3. テーマ

風呂敷は多様な側面をもっているため、いくつかのテーマの設定が可能である。今回、実際に利用のあったテーマは下記のとおりである。

日本の伝統文化(総合学習、道徳など)	11件
環境(総合学習、家庭科)	10件
昔の道具(小学3年社会科)	9件
異文化理解(総合学習)	2件

ひとつの授業に対して複数のテーマが希望されることもあったが、その場合でもメインとなるテーマを担当に設定してもらい、それに沿って授業をおこなった。もっとも利用が多かったテーマは「日本の伝統文化」であった。総合学習や道徳の授業として利用する学校が多い。道徳の教科書で、じっさいに風呂敷を使用するお話を取りあげているテキストもある。続いて多いのが環境学習で、総合学習や家庭科の授業としての利用であった。小学6年生、中学生の場合は家庭科での利用。それ以外の学年では総合学習として位置づけられている。学年が限られるものの、小学3年生の社会科「昔の道具」での利用も人気であった。

1-4. 授業内容

授業の進め方は、はじめに風呂敷がかつて「運ぶ」道具として日常生活のさまざまな場面で使用されてきたことを紹介する。ものの形にあわせて包むことができることや具体的な使用例を見せるため

に、風呂敷で包んだもの5～6点を用意しておく。大きな唐草模様の風呂敷にそれらを包んでおいて、順番に見せていく。ここでは「中身あてクイズ」として子どもたちに答えさせる。

続いて結び方、包み方を体験させる。基本の結び方である真結びの練習から始め、スイカ(ボール)包み、ペットボトル包みを体験させる。一通り体験をしたあとで、エコバックとしての風呂敷の利用法について紹介し、レジ袋の削減などについても触れる。中学生の場合は、レジ袋の有料化の事例や議論などについて補足する。

進み具合に応じてエコバックの作り方も体験させ、最後には各自が工夫して包む時間もとれるように時間配分をおこなった。ペットボトルは、ビン包みの代わりとして導入したが、子どもたちの日常生活にとって身近なものであり、また、各家庭にあるバンダナやお弁当包みで代用できるため、あとで使える体験として重要である。

最後に世界の他の地域での包み布文化、使用法について布や写真パネルを使いながら紹介する。

まとめとして、ものの形にあわせて包めること、使い終わったあとは小さくたたんで持ち歩けること、レジ袋の代わりになるバックも簡単に作れることなど一枚の布の可能性、工夫しだいでいろいろな使い方ができることを確認する。

基本の組み立ては以上のとおりだが、学校側からの要望に応じて地域産業の染めの行程について紹介する場合もあった。

授業は各教室で行う場合と多目的室、体育館などで行う場合とがあった。教室で行うときには必然的にイスに座り、机の上で作業を行うが、個別の机では風呂敷を広げきれず、作業しにくい場合もあったため、後半ではできる限り多目的室等を使用した。多目的室で、とくに畳の部屋や床に座れる部屋で行うと、より体験がしやすい様子であった。子ども同士で教え合うことも各自の机を離れたほうがスムーズに進むようである。包み方の例を見せるときにも、床に広げた方が多くの子どもが近くで見ることができるというメリットもあった。

1-5. 各学校の活用法

通常の出前授業では、それぞれメインとなるテーマ(環境、日本の伝統文化など)を選び、授業の1コマ(45分)があてられることが多かったが、打ち合わせの結果、体験の時間を十分に確保したいとの意向で2コマ続けて時間を確保する学校や、出前授業の前後で関連の授業や指導をしている学校も見られた。たとえば中学校の家庭科の授業では、事前に3R(reduce, reuse, recycle)や5R(refuse, reduce, reuse, recycle, repair)などについて学習し、その具体的な行動の一



例として本プログラムを活用するというケースがあった。同じく家庭科で、小学6年生が出前授業の前に風呂敷（絞り染めで端をミシンでかがったもの）を自分たちで製作し、それを授業でも使用するというケースもあった。この学校では、中学校からはお弁当持参の生活となるため、そこで使う風呂敷を製作し、利用法を学ぶという将来を見据えた授業計画を立てていた。今後、出前授業の活用方法として他の学校にも紹介していきたい。



また、授業を保護者参観にあてる学校も見られた。中にはクラスの2/3の保護者が参加する学校もあった。クラス担任からは、保護者の参加は10名程度だろうという予想を聞いていたが、それを大幅に上回ることもあり、教師だけではなく保護者にとっても風呂敷が関心の高いテーマであることがうかがえた。「保護者参観」とまでいなくても、学級通信等で「保護者の参加も可能」と知らせ、参加があった学校は約半数にのぼった。

内容の項目でも触れたが、地域産業の学習と結びつけるための授業と位置づけた学校もあった。その地域は伝統的に風呂敷も含めた染めものが盛んな地域で、地域産業を学ぶことになっている4年生と、すでに学んだ5年生での授業利用があった。そこではPTA会長が染織の仕事をしていることもあり、私たちが授業の準備のために作業場所や行程を見学させてもらうなどの協力を得た。

異文化理解をテーマにあげていた学校では、日頃からさまざまな地域の文化について取り上げており、当日もクラス担任がアイヌの刺繍の布や韓国のポジャギを持参するなどふくらみのある授業とすることができた。

その他にも授業の様子を学級通信などで紹介し、子どもたちの感想やエコバックの作り方を親向けに発信している学校も見られた。

いくつかの学校からは、年間カリキュラムに取り入れ、毎年、実施したい（してもらいたい）との声も寄せられた。

1-6. 生徒・児童の反応 感想文、アンケート結果から

アンケートの回答は、13校1,021名分が寄せられた。そのうち感想文が同封されていたものが8校。子どもたちの丁寧な感想は、私たちが授業を振り返る上で、アンケート以上に大変参考になる資料となった（アンケート集計結果については資料参照）。

学年の項目でも触れたように、授業がもっとも盛り上がるのは小学3、4年生であったが、授業をおとなしく聞いている傾向の強い小学校高学年でも、感想を見ると「風呂敷はけっこう便利だ」「環境にもやさしい」「他の国にもあるのに驚いた」などのように表現されており、きちんと記憶に残り、家庭でも話している様子が見えられた。全体では6割の生徒・児童が家族に風呂敷のことを話したり、使い方を教えており、親子のコミュニケーションを促進するというプロジェクトのねらいも達成できていることが確認できた。「自宅には風呂敷がなかったのでおばあちゃんの家で風呂敷をもらいにいった」との感想も寄せられ、世代間コミュニケーションが祖父母にまで広がる可能性を示している。このことは詳しくは後述するが、プログラムの対象者が子どもに限定されず、保護者、高齢者にも価値を見出してもらうことができる可能性を示している。「お母さんに教えたら、おどろいていた。もっと教えて、と言われた」などの感想もあり、親子で学ぶきっかけになることや、いつもは教える側である大人が子どもから教えてもらうという機会となっている様子もうかがえる。

アンケートによると、授業後に取り組んだものとして「真結び」がもっとも多く、3割の子どもが再度、挑戦している。真結びはほどこ方を手品風にアレンジしているのが楽しそうに体験する子がいる一方で、授業の中で難しかったこととして真結びをあげる子どもも全体の2割弱あった。真結びについては学校による差が大きかった。すぐにできるところとそうでないところで明らかに違いがあることを感じた。結ぶという行為自体を日常生活で体験していないのだろうと推察できる。真結びでなくても、ふつうに「ほどけないように結ぶ（固結び、ふたつ結び）」ということが伝わらない場面も多々あった。

また、寄せられた感想を見ていると、単に「楽しかった体験」というだけではなく、エコバックや日本以外の地域の包み布文化について触れたことについても、こちらの予想以上に子どもたちの記憶に残るようである。さらに自分で包み方を考え、それを絵などで表現している子どもも少なくない。

1-7. 取材

取材をうけたのは、6件。内訳は新聞社2件、テレビ局2件、地方自治体の広報課による取材2件。こちらからプレスリリースを行い、取材時間を設定したものが1件で、それ以外は学校側や主催者が新聞社、広報担当者等に連絡をしていた。テレビ局の取材を受け、夕方のニュースで放送されたケースでは、それが授業の申し込みにもつながった。

1-8. 今後の課題

今年度の活動で、風呂敷の授業として利用可能な教科やニーズのある学年などについての基礎データは得られた。今後は1-5. 各学校の活用法でも紹介したような出前授業の前後での取り組みなどについても紹介し、出前授業を1回の授業として終わらせるのではなく、関連の授業をおこなうという形でよりよく活用してもらいたいアイデアを提供していきたい。また、風呂敷の授業のために地域の方に関わってもらいたいことも考えられる。たとえば地域の方に呼びかけ、家庭で眠っている風呂敷を学校の教材として提供してもらったり、保護者や地域の方に簡単な研修を受けてもらい、授業を手伝ってもらいなど様々な展開の可能性が考えられる。また、今年度の教員研修での講座は、授業の申し込みに大いにつながるという効果があったが、今後、そうした場で各校の取り組みの紹介や意見交換などの場をつくり、あらたな展開について考えていくことも検討したい。



2. 大人を対象としたプログラム

2-1. 活動概要、講座実施経緯

大人を対象とした講座の開催にあたっては、子どもたちの風呂敷体験を支援する大人を養成する講座開催を目指して情報収集を行った。大阪府、京都府下の教育委員会、学校関係者、児童館職員から講座実施の可能性について情報を得た。その過程で意見交換などを重ね、各施設の状況を踏まえていくつかのパターンで講座の開催をはかった。それぞれの事例については後述するが、環境教育をテーマとした教員研修や児童館職員を対象とした事前研修、母親講座を開催した。さらに社会教育課や生涯学習センター、公民館からの情報収集も続け、公民館での高齢者を対象とした講座を開催した。

PTA 家庭教育学級についても情報収集をはかったが、学校単位での活動になるとのことで、こちらは授業の申し込みのあった学校等に打診していった。学校も行政もPTAの活動に具体的には関わっていないため、各学校のPTA担当者あてに資料を送付することが確実であることも判明した。こちらは来年度以降の課題となる。保護者を対象とした研修としては、前述のPCTによる申し込みが1件あった。

情報収集の結果、風呂敷の講座自体が大人向けの講座として関心が高いことが明らかになった。同時に「地域指導者養成」講座の開催については、枠組み作りも含め、段階を追って進めていく必要があることも判明した。そこで今年度については、一般市民を対象とした風呂敷を知るための体験講座を生涯学習センターで2月に実施し、地域活動へとつなげていく可能性を探った。

今年度は全体で7件188名を対象として実施した。(実施一覧については資料参照)



大人向けのテキスト



2-2. 講座のテーマと実施場所

大人を対象として開催した講座のテーマ、実施場所は下記のとおりである。テーマは複数設定している場合もある。

<テーマ>		<実施場所>	
環境	3件	児童館	3件
日本の伝統文化	2件	教育センター	1件
プログラム開催のための事前研修	2件	公民館	1件
教員研修	1件	生涯学習センター	1件
		小学校	1件

2-3. 事例紹介

①環境教育をテーマとした教員研修

市の教育センターからの依頼で、平日の放課後に開催される定例会で実施。会場は教育センター。小学校19校、中学校4校のあわせて23校の参加があった。内容は、はじめに20分程度で風呂敷を活用した授業を紹介。授業のねらいや子どもたちの反応、子どもが喜んだり、関心をもったりする包み方などを具体的に紹介し、そのあとは風呂敷の作法や伝統的な使用法などについての解説と体験してもらった。じっさいの時間は1時間半程度であったこともあり、体験の時間が少し足りない感じになった。

前述のように、研修参加23校中7校から出前授業の申し込みがあった。アンケートによると、出前授業への期待とともに教師自身が、風呂敷の活用法に触れられたことがよかった、という声が複数寄せられており、子どもたちに関わる世代に風呂敷について知ってもらう必要があることが感じられた。

②児童館の職員、ボランティアスタッフへの研修

2つの児童館で実施したが、どちらの館とも年度の初めに情報収集をおこなった館である。1件は子どもを対象とした土曜クラブでの開催前に担当する職員を対象に事前研修として行った。事前に大人に説明をしておく、当日もスムーズに進む。もう1件は募集の段階では親子体験プログラムであったが、館の担当者が呼びかけを行い、児童館活動に関わっている大人(学生含む)15名ほどが参加した。このケースでは、親子の参加者と同時に並行で進めることになった。子どもたちにどのように伝えると分かりやすいか、子どもがどのようなところに関心をもつか、などは感じてもらえたと思われる。



③ PCT 授業の事前研修

PCT (parents, children, teacher) とは、保護者と教師がワークショップなどを通して話し合いを重ね、子どもたちに体験させたい授業をつくっていくという取り組みである。今回はその保護者からの申し込みと、学校側への提案によって授業を実施することになった。

保護者からの要望で、3クラス合同（約100名）での授業となったため、保護者に授業の補助をお願いした。その打ち合わせを兼ねた事前研修を1時間半程度おこなった。このケースでは、研修当日やメール、電話等でのやりとりによって保護者の要望とこちらの提案とを調整し、非常に建設的に授業を準備し、行うことができた。今後の展開に参考になる事例であった。

今回のように多くの保護者が主体的に関わることにより、学校内でも情報が広まり、その学校で読み聞かせを行っているグループから参加希望の申し出があるなど、学校全体の活動として取り組まれている様子がうかがえた。今回のように保護者に授業を補助してもらう形は他の学校やPTAにも提案していきたい。

④ 母親講座

児童館での乳幼児の母親を対象とした講座。4月に子ども向けのプログラムを実施した児童館の紹介という形で開催にいたった。定例で開催している子育て講座の一環としての依頼となった。職員も含め、12名の参加者があり、乳幼児を連れて参加する方もあった。若い母親の世代は、環境への意識が高く、風呂敷もそうした観点から注目されている様子であった。じっさいに風呂敷を持参する方もあった。参加者からは「使っている人を見かけるので、どうやるのか知りたかった」という声が聞かれた。風呂敷の使用自体をファッションの一部として受け入れる素地があることがわかった。児童館の職員からは、「子どもたちに教える」との感想もあった。子どもたちとの楽しみ方などについても紹介したが、ふだんから子どもたちと関わっている方々なので、自然と子どもたちにも伝わっていく可能性が高く、手応えを感じた。



⑤ 高齢者対象の講座

60歳以上の方を対象にしたふれあい教室の定例会での講座。60名以上が参加。公民館からの依頼で実施した。

袱紗ふくさの利用法などのほかに新しい使い方として、エコバックやペットボトル包みなどを体験してもらった。2時間を予定していたが、体験の時間が少し足りない感があった。



風呂敷を使っていた世代であり、逆に親しみがある分、関心が高かったものと思われる。今後、こうした定例会の講座として、今回のように、まず参加者自身が風呂敷文化を学んだあとで、子どもたちに教えるための講座を開催するなど、連続講座などの形で体系的に実施できないか、検討していきたい。

⑥ 生涯学習センターでの一般市民を対象とした講座

生涯学習センターを借りて一般市民を対象とした講座を実施した。20代から80代までの幅広い年齢層の参加があった。参加者は53名。ほとんどが女性であったが、男性も5名ほど参加していた。広報への協力を目的として、市の後援を依頼した。市の広報誌に催しもの案内として掲載され、参加者の半数近くがその情報をもとに参加した。その他、新聞社やタウン誌なども講座開催に関心を寄せ、4誌で講座開催の告知記事が掲載された。

講座の内容は、風呂敷の作法や歴史、その活用法について、世界の包み布文化、エコバックとしての利用法などあらためて注目される風呂敷について紹介した（出前授業実践例も含む）。体験を交えて1時間45分で、体験の時間が1時間程度となってしまい、こちらも少し不足気味であった。参加者の半数が風呂敷の活用法に関心をもっていたこともあり、体験の時間をもう少し長く取る必要が感じられた。

「子どもたちに伝えていくために」という内容も盛り込もうとしたが、1時間45分ではとても難しく、出前授業の実践例を紹介するにとどまったが、それでもアンケートからは、参加者の具体的な地域活動との関わり情報も得られた。参加者全体から見ると1割程度で割合としては高くないものの、「地域での活動にいかしていけそうだ」という回答も見られ、今後、講座を二部制や連続講座とするなど工夫していきたい。なかには消費者教育として「町内会、婦人会、PTAにも声をかけて市単位でこのような講習会がもてるとよいと思う」との意見もあった。こうしたこともふまえて、関係各所に情報を提供し、連携をはかっていきたい。

2-4. 今後の課題

大人向けの風呂敷講座自体が、幅広い年代にわたって関心の高いテーマであることが判明した。

現状を踏まえると、今後、「地域指導者養成」を目指した講座を開催していくには、二通りのアプローチが考えられる。

一つはふだん子どもたちと関わる大人を対象として、風呂敷に親しむことを趣旨とした講座に参加してもらい、そこで子どもたちとの体験の仕方などをアドバイスしていく方法。その対象となるのは、教員、PTA 担当者、児童館職員、児童館ボランティアスタッフ、放課後子どもプランに関わっているスタッフなどである。こうした人たちに向けては、風呂敷のおもしろさと同時に教材としての価値について情報提供をおこなっていきたい。

もう一つはふだん子どもに関わる機会の少ない大人を対象とするものだが、こちらは二段階の講座を開催していく方法が考えられる。まずは、今年度実施したような形で風呂敷自体について学んでもらう講座を開催する。続けて希望者には子どもたちの風呂敷体験活動を支援するための講座を開催し、出前授業の紹介や具体的に子どもたちが喜ぶ包み方など指導上の留意点などについても伝える。その上で希望があれば、こちらが児童館などでプログラムを実施する際にスタッフとして手伝ってもらうことや、じっさいに子ども会活動など地域でプログラムを実施する方には、体験用風呂敷の貸し出しなどをおこなうなど受講した内容をいかせる体制づくりについても検討していきたい。

<資料>

出前授業実施一覧(2007年4月～2008年2月)

日程	学校・施設名	学年	人数	テーマ	時間	備考
4月28日(土)	京都市村松児童館	小学校低学年	40	日本の伝統文化	13:30～15:30	
7月4日(水)	東大阪市立長瀬西小学校	4年生(2クラス)	74	環境(総合)	2,3時間目	
7月9日(月)	茨木市立北陵中学校	2年生(2クラス)	83	環境(家庭科)	2,3時間目	保護者、他校の家庭科担当教員参加
7月12日(木)	茨木市立北陵中学校	1年生(2クラス)	70	環境(家庭科)	2,3時間目	保護者、他校の家庭科担当教員参加
9月5日(水)	八幡市立南ヶ丘児童センター	小学1～6年	20	日本の伝統文化	15:30～16:30	教育委員会関係者参加、テレビ局取材
9月11日(火)	摂津市立第三中学校	2年生(2クラス)	76	環境(家庭科)	2,3時間目	
9月12日(水)	摂津市立第三中学校	2年生(2クラス)	76	環境(家庭科)	2,3時間目	
10月30日(火)	京都市立朱雀第三小学校	4年生(2クラス) 5年生(2クラス)	170	環境、日本の伝統文化(総合)	2,3,4,5時間目	保護者、新聞社、テレビ局等取材
11月10日(土)	京都市吉祥院児童館	幼児～小学校低学年	30	日本の伝統文化	10:30～12:00	保護者、地域の方の参加
11月28日(水)	池田市立呉服小学校	6年生(2クラス)	73	環境、異文化理解(家庭科)	2,3時間目	
12月4日(火)	茨木市立白川小学校	3年生(3クラス)	95	昔の道具(社会)	2,3,4時間目	
12月6日(木)	茨木市立畑田小学校	5年生(1クラス)	40	日本の伝統文化(総合)	3時間目	
12月12日(水)	摂津市立味生小学校	3年生(2クラス)	73	昔の道具(社会)	2,3時間目	
12月14日(金)	吹田市立千里第三小学校	3年生(4クラス)	162	昔の道具(社会)	3,4,5,6時間目	
12月19日(水)	京都市立池田東小学校	3年生(1クラス)	40	昔の道具、環境(社会)	3時間目	新聞社取材
12月22日(土)	池田市五月山児童館	幼児～小学校低学年	21	日本の伝統文化	13:00～14:30	児童館ボランティアスタッフ参加
1月15日(火)	吹田市立高野台小学校	5年生(2クラス)	80	環境(総合)	2,3時間目	保護者参加
1月18日(金)	茨木市立山手台小学校	3年生(2クラス)	60	昔の道具(社会)	5,6時間目	保護者参加
1月22日(火)	長岡市立長岡第七小学校	3年生(2クラス)	60	日本の伝統文化、昔の道具(社会)	5,6時間目	

日程	学校・施設名	学年	人数	テーマ	時間	備考
1月24日(木)	茨木市立福井小学校	3年生(2クラス) 6年生(1クラス)	80	3年生:昔の道具(社会) 6年生:環境(家庭科)	2,3時間目	
1月29日(火)	茨木市立茨木小学校	4年生(3クラス)	170	日本の伝統文化(総合)	2,3,4時間目	保護者参加
2月1日(金)	池田市立伏尾台小学校	3年生(2クラス)	45	昔の道具(社会)	5時間目	保護者参加
2月5日(火)	茨木市立中津小学校	6年生(3クラス)	91	日本の伝統文化	2,3,4時間目	市の広報課の取材
2月13日(水)	神戸市立櫛谷小学校	3年生(1クラス) 4年生(1クラス)	37	昔の道具	3時間目	
2月22日(金)	箕面市立萱野小学校	5年生(3クラス)	130	日本の伝統文化、異文化理解	2～3時間目	PTAとの協力、保護者等の参加、市の広報課取材
2月27日(水)	京都市立岩倉南小学校	4年生(3クラス)	85	日本の伝統文化	2,3,4時間目	

合計1,981名 ※～は連続で行ったことを示す

大人向けの講座(2007年4月～2008年2月)

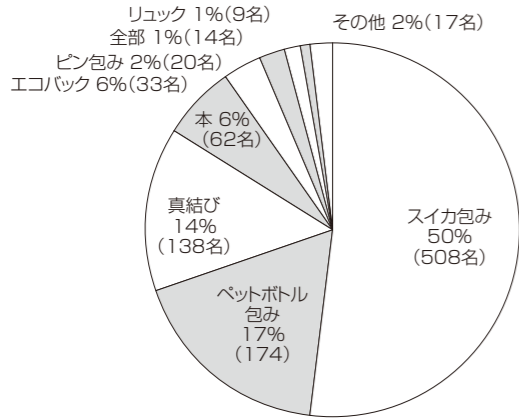
日程	場所	対象	人数	時間	内容
6月28日(木)	茨木市市民総合センター	茨木市内の小・中学校の教職員	23	16:00～17:30	環境学習のための研修
7月11日(水)	京都市吉祥院児童館	児童館職員および保護者	5	10:00～11:30	プログラム実施前の事前研修。風呂敷包みの基本、指導法について
11月26日(月)	京都市白川児童館	乳幼児の母親と幼児、児童館・保育所職員	12	10:30～11:30	児童館が主催する乳幼児の保護者対象の子育て講座でエコバックの作り方など
12月18日(火)	高槻市立城内公民館	60歳以上の教養講座の定例会	65	10:00～12:00	60歳以上の教養講座で風呂敷の歴史とその使用法、子どもと風呂敷を学ぶためのポイントについて
12月22日(土)	池田市五月山児童館	保護者、ボランティアスタッフ	15	13:00～14:30	日本の伝統文化風呂敷を学ぶ。児童館活動でいかしてもらうための研修
2月7日(木)	箕面市立萱野小学校	小学生をもつ保護者	15	10:30～11:30	PCT授業実施前の事前研修。風呂敷包みの基本、指導法について
2月16日(土)	高槻市立生涯学習センター	一般市民	53	13:00～16:00	日本や世界の風呂敷についての講座と使用法の体験

合計188名

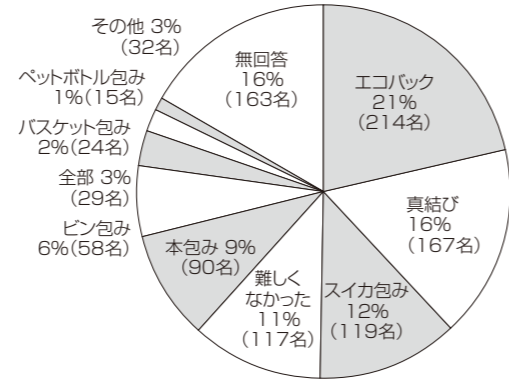
アンケート集計結果

出前授業 回答13校 1021名 (小学校12校・中学校1校)

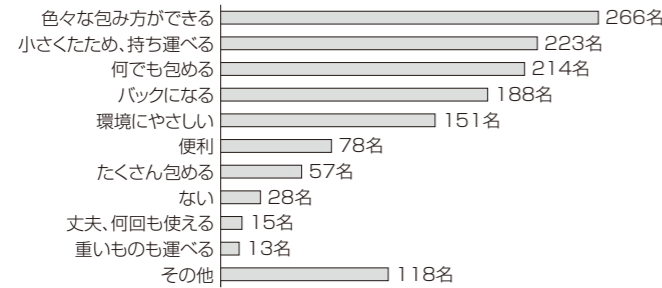
1. おもしろかった包み方



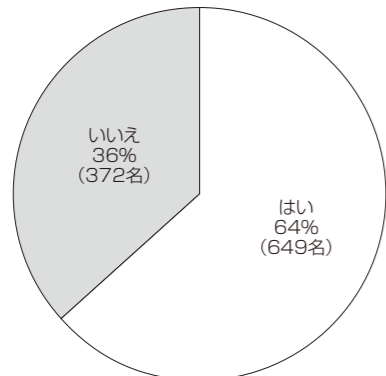
2. 難しかった包み方



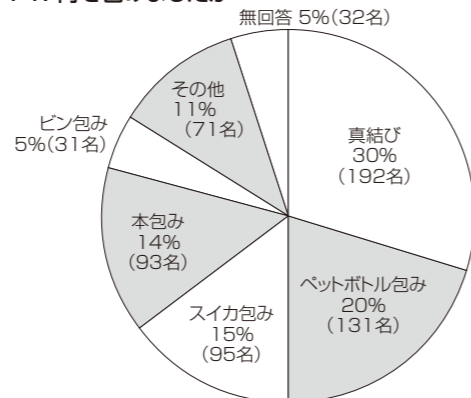
3. 風呂敷の良いところ(複数回答)



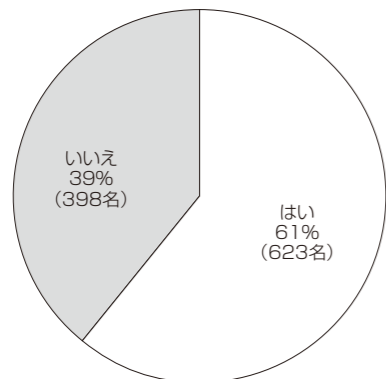
4. 授業のあとに使ってみましたか



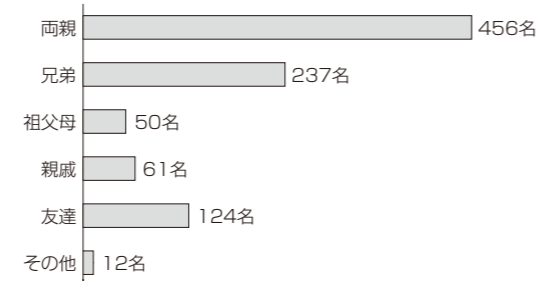
4-1. 何を包みましたか



5. 風呂敷のことを誰かに話したり教えたりしましたか



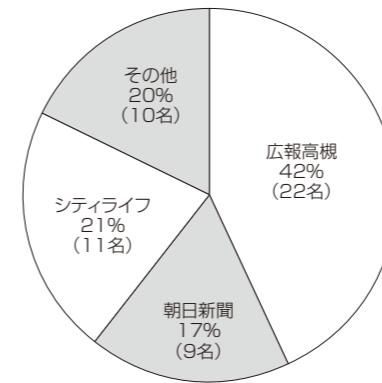
5-1. 誰に話したり教えたりしましたか(複数回答)



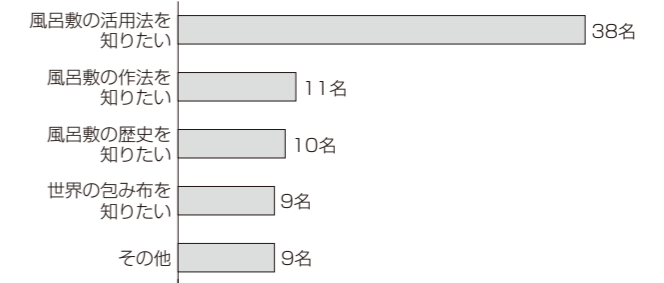
大人を対象とした講座「風呂敷つかってみませんか エコバックから世界の包み布まで」

2008年2月16日実施 回答49名 (参加52名)

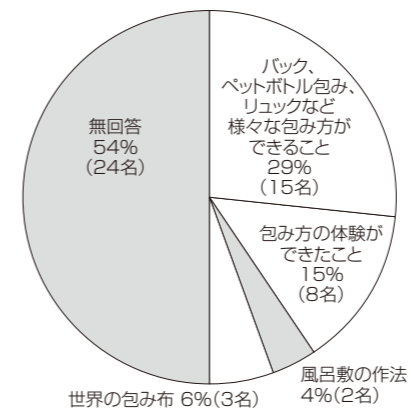
1. 今回の催しをどのように知りましたか



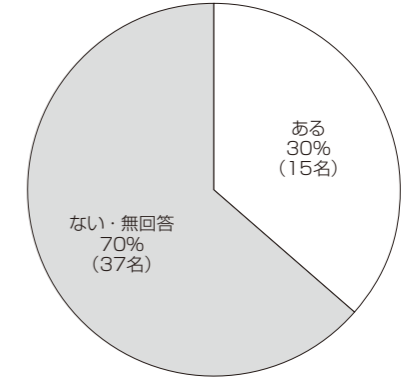
2. 参加の動機をお教えてください(複数回答)



3. おもしろかったものをお教えてください



4. ふだん地域で活動する機会がありますか



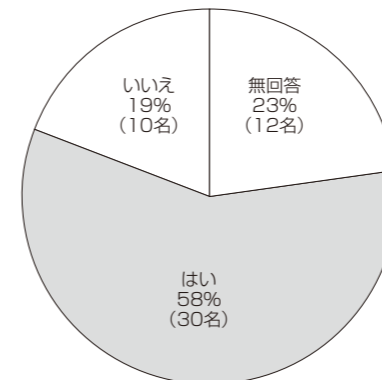
4-1. どのような活動ですか

幼児との関わり
地区福祉委員会のふれあいサロン
施設のボランティア
子ども会
生活学校運動
自治会
少年剣道
読書会
地区の女性部活動 など

4-2. 今回の講座をそこで利用できそうですか

できる・できそう 10名

5. 子どもたちが風呂敷を体験する活動を手伝う(企画する)ことがあれば参加してみたいですか



6. 感想など

参考になった、買い物するときなどに利用してみる 10名
実習の時間がもっとほしかった 3名
また参加したい 3名
頭の体操になった、風呂敷をつくってみる、町内会、婦人会、PTAなどにも声をかけて市単位で実施してはどうか? など

出前授業指導案（基本）

※ 体験内容は状況に応じて変更している

指導内容	指導方法	資料など
(導入) 10分 風呂敷って何だろう? 結び方の練習	風呂敷で包まれたものの中身を当てるクイズから、ものの形に合わせて包むことができることやかつてはものを包んで運ぶ道具として使われてきたことを学ばせる。 基本の結びである真結びを練習させる。	唐草模様の風呂敷 風呂敷で包んだもの (重箱・果物模型・ボール・ペットボトルなど) 風呂敷
(展開) 25分 風呂敷で包んでみよう 風呂敷を利用する (環境問題と風呂敷) 工夫して包んでみよう	ボール、ペットボトルの包み方を練習させる。 風呂敷エコバッグの作り方の指導を通して、レジ袋の代用物としてのエコバッグの利点を学ばせる。 風呂敷で様々な物を包ませる。 各自が考えた包み方を発表させる。	風呂敷 包むもの (ボール・ペットボトル) 教室にあるもの (教科書・リコーダーなど)
(まとめ) 10分 世界の包み布 現代における風呂敷	日本以外の国にも同じような布の使用例があることを紹介する。 風呂敷で物をつつんでみた感想等を子どもたちに聞きながら、風呂敷が現在、見直されていることやその利点を再確認する。	世界の包み布パネル 布、包むもの (人形) テキスト

取材記事



2007年10月31日 京都新聞



2007年12月20日 京都新聞



広報いばらき No.687 2008年3月号